

病院ボランティア活動の心得

岡山県精神科医療センター

岡山県精神科医療センターでは、みなさまにボランティア活動をしていただくにあたり、患者さんへのより良いサービスの提供や、以下の心得をまとめました。
ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆病院ボランティアの活動とは

ボランティア活動をしていただくみなさまには、患者さんに寄り添った活動をしていただいたり、スタッフ、患者さんとは異なる第三者的な客観的視点で病院や医療的支援を見ていただいたりすることで、より患者さんにとって安心・安全な治療につなげたいと考えています。

【活動の基本的なあり方】

病院ボランティア活動はあくまでも「医療行為にわたらない病院業務の補助者」であり、「患者さんの安静と治療の妨げにならない」という点を常に意識することが大切です。

【病院という場所を理解する】

病院には、診療科、看護部、薬剤部、放射線室、検査室、栄養科などで、多くの専門部門が存在し、職員や関係者がそれぞれの役割を担っています。

円滑な活動のため、病院の構造や特殊性について、事前にある程度の知識を身につけておくことも必要です。ぜひホームページをご覧ください。

【ボランティア活動の役割と責任】

「善意でやっている」という意識が先行し、ご自身の価値観を押し付けてしまうことは避けなければなりません。また、「無償だから」という理由で安易な行動をとることも控えるべきです。

ボランティア活動中は、常に状況を把握し、患者さんやご家族への配慮を忘れずに、責任ある行動を心がけましょう。

ボランティアとしての役割と立場を理解し、責任感をもって活動することを重ねて
よろしくお願い申し上げます。

○服装について

- (1) 清潔で動きやすい被服の上に、ボランティア用名札を胸につける
- (2) 靴はかかとの低い、音のしないものを履く
- (3) 髪はきちんとまとめる
- (4) 爪は短くし、香水や化粧品は控えめに、アクセサリーやマニキュア等（ネイルチップ含む）は安全上の理由からお控えください

○患者さんへの接し方について

- (1) 患者さんのプライバシーに配慮し、ボランティア活動中に知り得た情報は他言しない（ボランティアをやめてからも同様に他言しない）
- (2) 常に患者さんには公平に接し、特定の患者さんと個人的に親しくならない

- (3) 患者さんから病気、薬、その他院内のことについて聞かれた場合には、自分の判断で答えず、「ボランティア」であることを伝え、看護師など医療従事者に連絡する
- (4) ボランティア同士の活動中の私語は慎み、患者さんに対して無責任な対応や、気持ちを不安にさせる対話はしない
- (5) 常に笑顔と明るい態度を心がけ、丁寧な言葉づかいで接する

○活動について

- (1) ボランティア活動保険に加入すること（保険料は病院負担です）
- (2) 活動に要する費用は自己負担
- (3) 活動にあたっては、開始時刻、退出時刻、活動内容、連絡事項など活動場所の責任者に報告する
- (4) 具体的な活動については、職員と相談の上行動する

○その他

- (1) 患者さんの安全を図り、常に事故防止に努める
- (2) 活動の前後の手洗い、うがい等を励行し、自分自身の健康に十分気をつける
- (3) 自分の体調が悪い時は、患者さんに接しない
(途中で体調が悪くなったり怪我をした時は、遠慮なく担当職員に申し出る)
- (4) 患者さんに対して、病気に関すること、特に迷信的な話をしない
- (5) 走る、大声で話すことは慎む

みなさまのご協力が、患者さんにとって安心・安全でより良い病院作りにつながります。ボランティア活動の経験が、みなさまにとって豊かな時間や学びとしていただけたら幸いです。